

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： H.26年 9月 9日

所属：教育文化学部 国際文化課程 国際コミュニケーション選修 4年次

氏名：桜井 愛莉

派遣先大学名（国） ブカレスト大学(ルーマニア)

在籍身分：交換留学生

派遣期間：7ヶ月

渡航年月日：H25.9.21

帰国年月日：H.26.4.15

○派遣先大学における授業等の履修状況

授業名	前期(単位)	後期(単位)
TEXTE(FOR 2 nd year) 週2時間	4	4
LEC(FOR 1st year) 週2時間	4	4
LEC(FOR 2nd year) 週2時間	4	4
Civilization 週1時間	2	
P.E 週1時間	2	
LITERATURE (聴講のみ)	0	0
Civilization(Japanese culture) (聴講のみ)	0	0

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

TEXTE:分詞や助動詞、動詞、名詞などの活用などを学んだり、文法を学んだりする授業でした。プリントを配られ、決められた時間内に全て解き、一人一人指名され答えていく形式。その他にも、穴埋め問題。ルーマニア語からの英訳、またはその反対も行っていました。ルーマニア語が話せない留学生の場合は、あるテーマを出され、そのテーマに沿って500字以内でまとめ授業内に提出しました。演習ではひたすら問題を解く形です。

LEC:音声学、形態学、意味論、語用論、文構造を学ぶ授業でした。授業は講演式でした。一年生の授業では音声学について学び、二年生の授業では形態学、語用論、そして文構造について学びました。分からない部分は教授にその場で質問しその場で回答してもらうという方式です。演習ではひたすら問題を解きました。

Civilization:アメリカの歴史について学ぶ授業でした。講演式の授業。板書したものをノートに写したり、教授が口頭で述べたことをノートに書き写したりしました。演習では4人グループになり、あるテーマを出され偉人の年表、何をした人か、

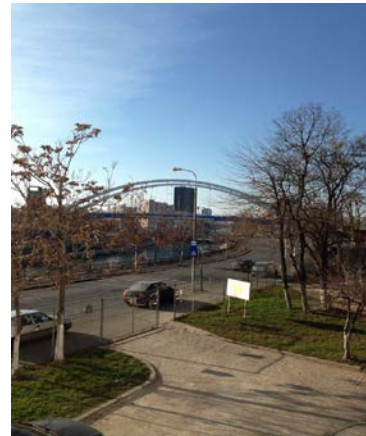
資料のまとめ、特徴のある部分を特化しまとめ、そして発表したりしました。

P. E. : スポーツの授業。リストの中から自分が好きなスポーツを選べます。

以上のことを受講してきました。LEC や TEXTE は私が最も興味がある言語学についての授業であり、より深く英語という言葉について知ることができました。これからは、言語学の中の一つに特化して、学び、卒業論文では英語で書けたらなと考えています。

○生活面について

寮: ルームシェア。日本人は日本人の留学生とルームシェアする確率が高いが、いない場合はアジア人の方とルームシェアします。私の場合は、前期: 日本人、後期: 中国人でした。部屋には、机・椅子・ベッド・棚、そしてユニットバスがあり、時々お湯が出ないことがありましたが、長くて3日待てば直ります。インターネットの配線は完備されており、手続きすればインターネットにつながります。寮内はとても暖かく、冬でもTシャツとハーフパンツでもいても暖かいです。シーツや枕などは無料で貸出してくれますが、寮長はルーマニア語しか話せないため、ルーマニア人の友達に手伝ってもらう必要があります。寮には台所がないため、外か特定の場所を作り調理しなければなりません。調理器具(ガス台、電子レンジ、冷蔵庫、鍋 etc)は自分たちで調達します。洗濯機は共同のものが別室に置いてあります。



寮の部屋からみた風景

食生活: ルーマニアは肉食国家です。また、パンを多く食します。そのため、パンはとても安く、食パンであれば20枚入りで約60円で、カットされていないものであれば約25円で一斤買えます。しかし、レストランにいても日本食のよう



当時 30 円のパン

に野菜の料理が少なく栄養が偏ってしまうのが欠点です。スーパーで売られているものも季節によってはないものもあり、冬になると野菜などの値は高騰します。季節の野菜を味合うといった意味では最適です。惣菜コーナーもスーパーにはあるが味付けは濃くなっています。フルーツは日本よりも豊富で安価です。たとえば、りんごであれば1kg60円です。寮に台所がないためうまく調理できず栄養が偏ってしまうのが欠点です。

交流: 現地の日本語学科の生徒はとても積極的です。初対面でも知っている日本語で話しかけてくるし、わからないことが

あれば、英語と日本語を使い質問してきます。日本語について教え合いして交流を深めていったり、イベントごとに参加したり、以前日本留学していた方々と協力して、日本について発表したりしました。日本語学科以外の人たちとも授業やイベントを通して会話したり、休日には一緒に出かけたりしました。ルーマニアの日本人学校にも行き、ボランティア活動もしていました。

ボランティアで日本文化交流に参加した時



○その他留学全般にわたる感想

私は当初、12ヶ月留学を予定していました。しかし、自己管理がうまくいかず体調を崩してしまい早期帰国をしなければなりませんでしたが、留学中の7ヶ月はとても濃いものでした。最初の2ヶ月は自分の想像していたルーマニアとは全く別物の世界に戸惑い、右も左もわからず、(その時は日本人留学生がいたので)先輩にルーマニアで過ごす最低限のことを教えてもらい、地下鉄を使い学校に通っていました。ブカレスト大学で受ける授業は当たり前ですがすべて英語で分かってはいたものの、初めはやはり苦戦しました。板書してくださる教授は数名いたものの、筆記体で書いてあり読めないものもよくありました。しかし、友達に手伝ってもらいテストで良い評価ももらえました。

自分の授業の他にも日本語学科の授業に出席。イベントにも出席させていただきました。クリスマス会や日本の夜などのイベントがありとても楽しい時間を過ごしました。

日常生活の面では、スーパーに買い物行くのにもルーマニア語、地下鉄の定期券を買うのにもルーマニア語、様々な手続きをするのにもルーマニア語というように、ルーマニア語を多用していました。英語は学校で使うもののルーマニア語を話す機会が多く苦労しました。様々な手続きの際には何時間といかず何日間という長い時間待たされるが多々ありました。このおかげといっはなんですが、どんな状況でも時間に余裕をもって行動するようになりました。

また、ルーマニアではアジア人=中国人という概念が少なからず残っています。中国人と思われるだけで、通りすがりの人に耳元で中国語らしい言葉を発して



日本語学科のクリスマスパーティー

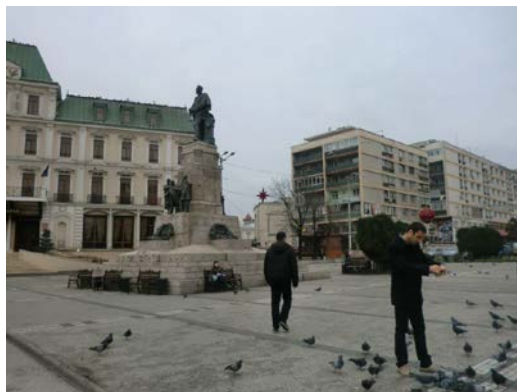
来たり、からかわれたりしました。それにも負けず、一、日本人として生活していたこともあり、精神的に鍛えられました。

苦労したこともたくさん

ありましたが、楽しい事嬉しい事もたくさんありました。ルーマニアの東北部に小旅行しに行ったり、秋田大学に交換留学しに来ていた友達にあったり、ルーマニアの国の催しごとに参加したり、友達と一緒に勉強したりとここには書き表せないほど、いい思い出があります。

この留学を通して感じたことは、努力した分だけ達成感が生まれ、そして努力した分だけその後の目標やゴールが明確に見えるということです。失敗したってからかわれたって自分ができる限り努力すれば前進できるということを改めて学ぶこともできました。上記にも記しましたが、卒業論文は英語で書くことを目標に日々精進していきたいと思います。そのほかにも、ルーマニアではヨーロッパ言語を使用する確率が高かったので、フランス語やドイツ語についても学びたいと考えています。

ルーマニアの日 凱旋門前にて



Bucharest 市内



伝統的なルーマニア料理